

みず・みどり みまもり はぐくむ 森がすき

みへも通信

水と緑の森づくり情報誌

冬

WINTER

2008.1
Vol.11



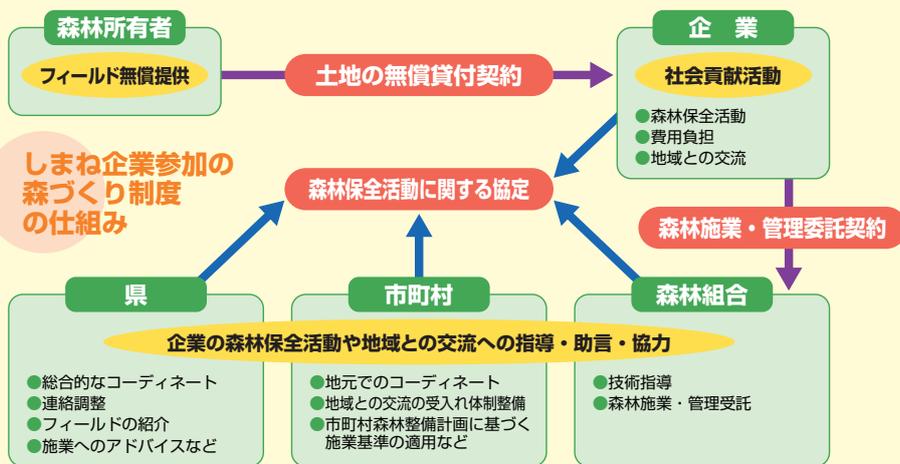
「しまね企業参加の森づくり制度」 島根県トラック協会と 協定調印

島根県では、多様な主体による県民参加の森づくりを一層推進していくために、企業が森林保全活動に参加しやすい環境を整備することを目的として「しまね企業参加の森づくり制度」を立ち上げました。昨年度の(株)山陰合同銀行に引き続き、このたび第2例目として島根県トラック協会が松江市玉湯町で行う森林保全活動について協定を締結しました。



◀調印式の様子
左より溝口島根県知事、永岡トラック協会会長、狩野松江八東森林組合組合長、松浦松江市長

▼森林保全活動対象地



■森林所有者の皆様へ

しまね企業参加の森づくり候補森林を募集しています。「しまね企業参加の森づくり」候補森林の申込み書受付窓口は、最寄りの森林組合です。

■企業の皆様へ

しまね企業参加の森づくり参加企業を募集しています。

- 企業のイメージアップに
- 社員や家族の皆様のリフレッシュに
- 地域との交流に

申込み・問い合わせ先

島根県農林水産部 林業課 水と緑の森づくりスタッフ

TEL0852-22-5170・6003 FAX0852-26-2144

●島根県のホームページもご覧ください。トップ>組織別情報>林業課>しまね企業参加の森づくり制度

<http://www.pref.shimane.lg.jp/ringyo/>

森づくり
資源活用
実践事業
取組情報

①

隠岐島前森林組合
合併10周年記念植樹

「島の森林づくりは海づくり」

隠岐島前森林組合が合併10周年を迎えるのを記念して、地域に開かれた組合を目指し「島の森林づくりは海づくり」と題し、島前の3つの島でそれぞれ記念式典と植樹式が行われました。

また、後日、森林の大切さを学んでもらうため、海士町内で小・中学生を対象に森林林業体験学習が実施されました。

第1回目●10月27日(土)

第1回目は10月27日(土)、産業文化祭に合わせて、海士町で開催されました。

風が強く、時折雨もちらつきましたが、林業及び漁業関係者等約40名が出席し、海士町立福井小学校の校庭で記念式典が行われました。その後、出席された皆さんは福井小学校の学校林に緑化センターから試験配布を受けたマツノザイセンチュウ抵抗性クロマツ（くにびきマツ）の植栽を行いました。



▲くにびきマツの植栽



▲みんなで記念写真

第2回目●11月3日(土)

第2回目は11月3日(土)、産業文化祭に合わせて、知夫村での開催となりました。

記念式典の後、関係者のほか、知夫小・中学校の皆さんにも参加していただき、約100名で知夫村仁夫の仁夫里浜公園にマツノザイセンチュウ抵抗性クロマツ（くにびきマツ）を植えました。秋晴れの空の下、気持ちよく作業ができました。



▲小学生も一所懸命です



▲みんなで記念写真

第3回目●11月4日(日)

第3回目は11月1日(日)、西ノ島町です。

この日も好天に恵まれ、西ノ島町浦郷の浦ノ谷地区埋立地で関係者の他、一般参加の小中学生、婦人会約100名と一緒にマツノザイセンチュウ抵抗性クロマツ（くにびきマツ）、ヤブツバキを植樹しました。



▲みんなで記念写真



▲親子で参加

第4回目●11月22日(木)

11月22日(木)、海士町において福井小学校（植樹体験）、海士中学校（間伐・枝打ち体験）の生徒さんを対象に森林林業体験学習が実施されました。小学生達は事前の学習会で紙芝居「ミーモクんの冒険」を熱心に聞いていました。終了後、簡単なアンケートを実施したところ、ほとんどの生徒さんが「この体験は面白かった、森林は大切だ、またこういう体験をしてみたい」と感じていることが分かりました。



▲間伐体験

▲大きくなってね



森づくり 資源活用 実践事業 取組情報

②

野遊びプロジェクト 「25世紀の森づくり事業」

松枯れや間伐遅れで荒廃した森林の手入れや自然体験を通じ、子供たちに自然の大切さなどを知ってもらうために、間伐作業やカブトムシの産卵場所づくりを体験してもらう取組が実施されています。

虫の教室

7月7日、鹿足郡津和野町内にある枕瀬山森林公園内の25世紀の森で、11家族等28人が参加し、夜間工事用の光源を持ち込み、光に集まる虫の観察会が行われました。

8月16日、津和野町の山村開発センターで、小学生19人が参加し、三瓶自然館サヒメルの職員を講師に招き、カブトムシやクワガタムシについての学習会が開催されました。



間伐体験

11月23日、津和野町内のスギ林で、3家族等8人が参加し、間伐作業が行われました。作業前には、野遊びプロジェクトのメンバーから、間伐の必要性について説明がされました。

間伐材は、チェーンソーを使った簡易製材機により、カブトムシの産卵場所用の板に加工されました。

交流の森づくり

12月9日、25世紀の森で、7家族等24人が参加し、森林の整理伐が行われました。

木を伐った経験のない子供たちにとっては、良い体験で、参加した子供たちは、皆真剣に手鋸を使って作業に取り組んでいました。

また、前回作った板を使って、カブトムシの産卵場所づくりが行われました。

他にも、みんなが遊べる交流の森とするため、散策道へバークを敷く作業が行われました。



次回は、巣箱づくり等の木工教室が予定されています。

野遊びプロジェクトは、森づくりや自然体験活動を通じて、自然の不思議や保護の重要性を学び、生きる力を育むため、荒廃森林の整備や野遊び体験塾等の取組を行う団体です。



「森への想ひ」

入選作品

昨年度募集しました「森への想ひ」の入選作品を紹介いたします。今回は、一般Cの部（60歳代～）で特選に選ばれた安来市の石丸正さんの作品です。



おやし 親父との炭焼き

石丸 正さん

明治17年、山村の貧困家庭に生まれた親父は、昭和36年、76歳で他界した。

その一生は、世の不況がつづく中、1町歩足らずの百姓（小作）仕事のほかは、年中休むことなく炭焼きに明け暮れた。

思いもしなかった。昭和14年春に小学校を終えた私も、就職が決まるまでその手伝いをする事となった。といっても、幼いころから目にしてきた親父の、仕事着の汚れや綻び、それに、人里離れた森の中の寂しさを思い浮かべ、二の足を踏んだものである。

そんな、私の気持ちを察してか、「山は天国わしゃ山子」と、誇らしげに宣う親父の前に、その意を充分解しないまま手伝えることになったのである。

案の定、生まれて初めて鋸や斧を使っただけの、危険が伴う重労働だけに、少しの油断もできなかった。しかも、足場の悪い山の斜面での立ち木の伐採。それを枝打ちして一定の長さに挽いた後、背負って蟹の横這いよろしく窯場まで運ぶ。

この作業は、窯の中の木が完全に焼き上がり、木炭となって取り出せるまでの約一週間を目処に終えねばならずつらかった。それだけに、手伝い始めた当分は、慣れない仕事への気遣いに加え、苦しさや疲れからどうなることかと思ったものだ。

それが、いつしか苦にならなくなった。というのが、家を出て森へ近づいていくにつれ、自分の足音はもちろん、私の吐く息の音もなにもかもが、吸い取られてしまうような静けさの中に、自分のいのちが脈打っていることを、それとなく感じとったからである。それに、なんといっても森の中の空気は、きれいでおいしかった。

しかも、夏ともなれば、家から外へ出ただけで汗をかく暑さに閉口したが、森の中へ入っていけばひんやりと冷え込み、暑さを忘れて気持ちいい。逆に冬になると、寒風に震え上がっていても森へ近づくとつれ、だんだんと温かさを感じたものである。

さらには、年中地面に接する足の感触がたまらなかつた。当時、算段すれば地下足袋が手に入ったろうにわが家では、親父が藁で編んだ草鞋であったから、森の地面に散り重なった落ち葉の湿

りが、スポンジのような柔らかさとともに足の裏へ直に伝わり、言い表すことのできないほどに心地よかった。

日が経っていき、森の中での山仕事が身につくと、早くノルマをこなそうという欲が出て来た。加えて、親父の口癖だった「山は天国わしゃ山子」の意味も、それとなく分かってきた私は、毎朝親父をそそのかしては、自分から先に森へと誘う楽しい日が続いていった。しかし、手伝い始めてから2年が過ぎた春先、就職が決まり、後ろ髪を引かれる思いで森を離れることになった。

ところで、その半世紀以上も昔、私たちが働いてきた、パラダイスの森が、現在、荒れに荒れているという。例え、それなりの理由があったにしても…。

言うまでもなく私たちは、空気を吸って生きている。人間が生きていくのに絶対必要な酸素や水を供給したり、森からの急激な水の流れを食い止めてくれるのが、森の木の葉である。

それなのに、私たちはこの呼吸し、酸素を吸う当たり前のありがたさを忘れ、命の源である水や空気も、金さえ出せばなんとでもなると思い上がっているのではなからうか…。

幸い、ここにきて、澎湃として起こってきた「森林を守ろう」との声に、胸がすく思いをしているのは、私だけではないだろう。

思い出せば、生涯を森に生きた親父は、森林の整備にはことのほか厳しくて、伐採後の後片付けなど徹底して行ってきた。また、植林にも力を入れており、松や杉などの苗木植えも、随分、手伝ってきたものである。

無学の親父は、森林保全などという難しいことは分からなかつたろうが、自分が年中暮らせる、自然に包まれた森林への畏怖の念を天国にたとえ、そこでの山仕事—山子を、自分の天職と、受け止めていたに違いなかった。

とまれ、私たちの生命を守ってくれる森林を、昔のように、この国は「森の国」だと、胸張って叫べるように甦らせたいものだ。

またそれが、私たちを生かしてくれる森林への、果たすべき当然の、義務ではないだろうか…。

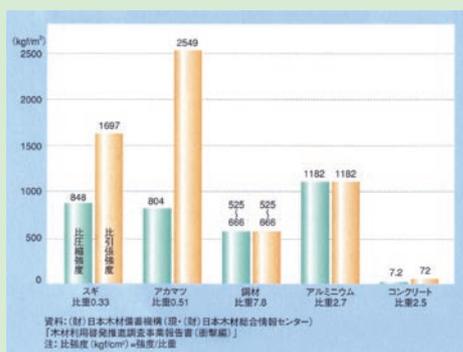
木材はどんなに優れたものなの？

2006秋号で、木材を使うことは森林を適切に管理することにつながるという話をしましたが、ここでは木材にはこんなに優れた点があるということについてお話したいと思います。



木材は軽くて強い材料です

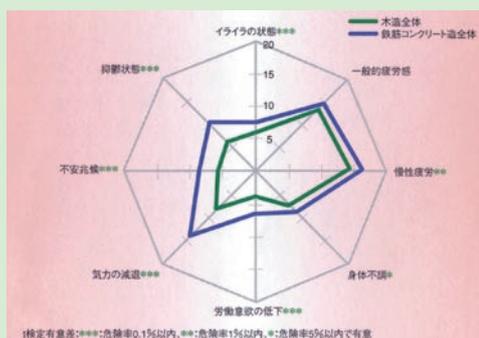
スギやアカマツは比重当たりの引っ張り強度や圧縮強度が高いため、軽くて強い材料と言えます。軽くて強いということは、①運搬費が安い、②現場での組立が容易、③木材の建物は重量が軽い、というメリットがあります。木材は同じ太さのものと比べると鉄やコンクリートよりも弱いです。しかし、同じ重さで比べると木材の方が断然強いです。木材は軽い割に強く、弾力性がある材料と言えます。



木質空間は人の健康や心理面へ良い影響を与えます

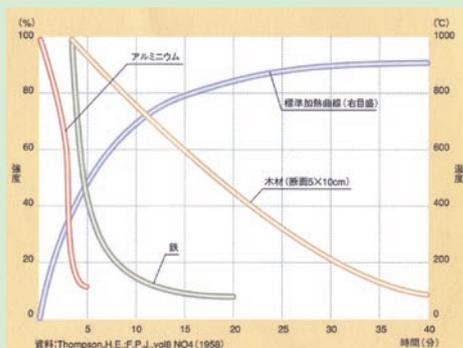
木材の持つ特性は、人に心地よい感覚を与える材料として様々な特徴があります。例えば、①断熱性が高く独特のぬくもりがある、②調湿作用がある、③衝撃緩衝作用がある、④目にやさしい、⑤ダニの繁殖を抑制する、⑥心地よく聞こえる音に調整する、といったものがあります。

全国2,400人の小学校教師の疲労症状を比べても、木造校舎の方が鉄筋コンクリート造校舎より、疲労の蓄積が少ないことが分かります。



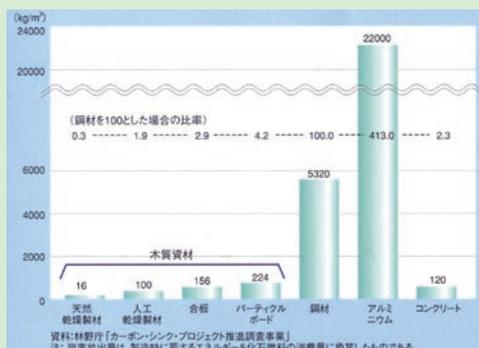
太い木材は火災に強い

鉄は、熱せられると短時間で温度が上がり変形してしまいます。木造住宅は、一見、火災に弱いように思われますが、断面が厚い木材は、表面に着火しても表層に炭化層ができて中まで燃えるのに時間がかかるため、短時間で家が崩れ落ちることはありません。



木材は省エネ材料です

各種材料製造時の炭素放出量を見ると、木材は鉄やアルミニウムといった材料に比べ炭素放出量が大変少なくなっています。このことからそれだけエネルギーを必要としない省エネ材料であると言えます。



5名の森づくり プロデューサーが 新たに誕生!

森林を守る活動や、木材や森林バイオマス資源など森の恵みを活かす活動をプロデュースし、次世代に引き継ぐ島根の森づくりをお手伝いいただく「森づくりプロデューサー」の養成研修を10月27日・28日、11月24日・25日の4日間行い、今回新たに5名の方に委嘱状を交付しました。



今回プロデューサーに 委嘱された皆さん

- 細田幸夫さん (松江市)
- 松原智志さん (奥出雲町)
- 大田俊昌さん (出雲市)
- 稲岡英治さん (浜田市)
- 下谷 巧さん (浜田市)



環境教育の第一人者である財キープ協会の川嶋常務の熱い講義の様子です。



熱心に講義を聴く研修生の皆さんです。
11月の研修は、公開講座として行いました。

森づくり・資源活用実践事業〈3次分〉の取り組み

県民の皆さんのアイデアと参加による、森づくり・資源活用実践事業の第3次募集分の取り組みが決定しましたのでお知らせします。

平成19年度 第3次分決定事業2件

分野	取り組みの名称	事業概要	実施団体(実施場所)
取森を利用する	安来の森を利用する取り組み	安来市内産の木材で建築された新校舎で学ぶ生徒とその保護者に、森林学習を行いながら、環境に優しい素材である木材に直接触れる木工体験(ベンチづくりなど)を通してあらためてそのぬくもりを感じ、森林への感謝・関心等の意識の高揚を図る。	安来市立 広瀬中学校 2学年部親子会 (安来市)
森を保全する取り組み	日晩山保全管理	真砂のシンボルでもある日晩山は、登山客も増える中、その管理が高齢化も進み困難になってきている。そこで有志が集い、保全管理を行っていくこととした。今回拠点となる小屋を多くの方の参加を得ながら設置し、下草刈りや不要木の伐採など保全活動を継続して行っていく。	真砂の自然と 暮らす会 (益田市)

平成19年度 第2次分追加決定事業1件

分野	取り組みの名称	事業概要	実施団体(実施場所)
取森を利用する	国産ペレットストーブ設置実証	間伐材等の製材事業から排出する樹皮や端材、菌床きこの事業で排出する破砕物等の木質系廃棄物の有効利用のため、国産のペレットストーブを導入し、実証展示・PRを行いながらストーブの普及とペレット製造供給体制の確立を目指す。	飯石森林組合 (雲南市・飯南町)